KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

8 3123 2

特
へ13
3123
8

道中膝毛四編 下

尾張徳川家蔵書之印
尾張徳川宗春

新のあり方をふひらきて。ひきたる男女の
いさかひ。さてふ取ばなしに。小八もおき
出てあるきふ。女房の人をくも。赤坂の
ををくるふ。叶宿の出場より。おもひ
なりに。三人ばかりの旅人。ともに
いさこ紙の中に。赤ちゃけたる
ものの。ちらハ。ばしりかと。
なんぞらの。ちのふ

こまりてゐることやうなァきのさう孫へやらうごもご。屋ごふ
ぬれ紙があるとうまいしごやあァ。孫のあいごろ。
おつて。むちゆまつ。こりごまるとぶ。こうまァ。
こ。大ようのなるがうごもご。一人ぶ。
あやまるざゐァ。あの孫ごでおいもちくふ孫うま。
ふんごいめまいこそーてァ。ひうのやらうめ。ぶん
ごうまふ家の主をとよびやァ。てこのうちに
卯塔婆しやァ孫へうしいやァ。あのごがうめ。

ごふでもこれがふれてゐるとトはてあいゆべ孫ふ八
ふまうこと及こ氏こまるを孫ふ安て孫一ふ
たるふあつくおうまゆふけうう。初とみ一コレきまゐこうやァ
さんきうごやりて。ゆまてゐあやァ。おいうがきてこと
ごうがうこァ。ふんのこりこ。さんのおこと十三こんさんれのまおやァ
孫へとうちのこごハ孫こりちのまうこうがあるものう。
ゆまごのゆごでのまをぬまてのごうふ。その孫をぶり
とこしこごうがうこりこァ。おれごてごハ孫ハァこんさ
そのごうがうこ孫一そのごうがうごハ孫こごうがう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぶ〜ぶ〜　さぐる　屋上の宮

てあれどもう　時宮をうちまもれど。出てもなれのあゆーげ
なる　屋上せよ　体して　小八　あんどうどーそれふむーぶ
らぶる。だあさん　手ふ　小八　あるめへう　ちゑ　小八　ハアさゆいござ
らぬ。あてさんぜまもてう　小八　ヲてくまてとのむのどへ。ヲヲ
たてうなくなのて。時ふ　ちゑ　ハアてふ　ごまふ
りてそんちふおらくとうとても。ちゑ体ぶ　ここ　みてのと
ふあ。ものう書へいうの　小八　ハアはきあうふくうく

トうくく出ちろちん〜ゆ化ぎどうく羽さて出あこまと見ばはくうふりのおきと
ちまあるとせーいうあるあう内ゆチハあのむとあ髪かうみどーのまどもるうくの
上ちろうあ出ひうゆるよあまゆハ出のの小八　モモ　はちゑんなどうふ。ねと
見るだあれゆまだろくは内へちうて笑ハうけ〜

ひうう　トうまをあらふ内姫へ　ゆハ　コウ　ゆ稲さん。おめ〜他と笑ひ
けくくちろてある　ちうう

あちるそーてひうとうふねなきるのう。ぶうう　羽　ゑん
トあううとはれども　小八　ふ人ハなき
きこハちとうけてねどとうれ肥〜〜きこのとちん他をうとて

ひうとうひなきる。コサ　他をこうふのどよウ　トむまあのまと　ちてひうるゆ。

きまどぶうきうもせど。ちぶうひうちるゆ小八とうハのゆどう。　小八　ワアイ〜〜
うあちあうあのどぶ。ぶうとひきとせちるうのまゆまううあ人がちけて

あのへハまちぶひとう。いうぶ〜とせるゆアハ〜〜　トあぶと
あげて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まる髪ぐ髪櫛。むまあごこの女ぐけまぐ。ども。イヤモまいの
きちぐ〳〵ゆへとゐりまてやもと〳〵ぐ〳〵そもぐでもあるまい。十二
あの人ぐこれちぐいなりのの〳〵ハテサ あの形身とかたちは
アレヤ〳〵あのそうぐ〳〵なんぐ。ぎまとときちげ〳〵ぐ。コリヤ。ぎも
きろ〳〵ぐ。アフ〳〵ぐ。ぐ〳〵。ぐ。ぎまのあぐきぐ。ちりやうこ。ぐ。ん
きんこ〳〵ぐ。ろんきんちぐ。ちりかるよのぐでぐ。おいこ。ぐう
て。ぐ〳〵ぐ。ぐ。ト〳〵ぐ。ぐ。ぐ。ふあるハ女房ぐ。もう。イヤ。ぐ。女
房〳〵ぐ。ぐ〳〵。ぐ。コリヤのかいりい。きんなあろうのぐ。ヤンヤ。

アレはろ〳〵じろあのこそう。そこせあのつ〳〵で
いろきちぐ〳〵
ぐ。ぐ。ぐ。

さんおやゑ多ちうぎぐ
どぎとつせ人へりへあ合
あれト話そこ人ぐちゃ
くでぐとる姫の
いちや まちぐひと
かく井戸でと
まめ人もさんごりのぐ
でよまとうとおうて

おやぢ
ちゃでものんで
絵
ちぐ人めうせ
絵
まいおさ多う絵
絵
きぐ八とつれて
絵
ちぐひろう
絵
ちぐひ
絵
コウきさ八
絵
ぐ姫とさうめて
絵
ぐ八
絵
ぐ

ぐくはは弟も孫へ。ちゃ
話ばさん。あ
ゆれ。
のよるる乳まぐれりのぐ。
つぐちゃ。
ヤイはやらうめ人のう
むとあとちゃうま
ぐんていて。

ぐ八ちまでとちぐ人
絵
ぐ人一生の出まぐぜ
絵
ぐ人の出とそう人ぐ
ちゃの
ちゃ
ふ牛ぬ
あらさう
ソリヤア赤坂ぐイ
ゆ
ふ牛ぬ

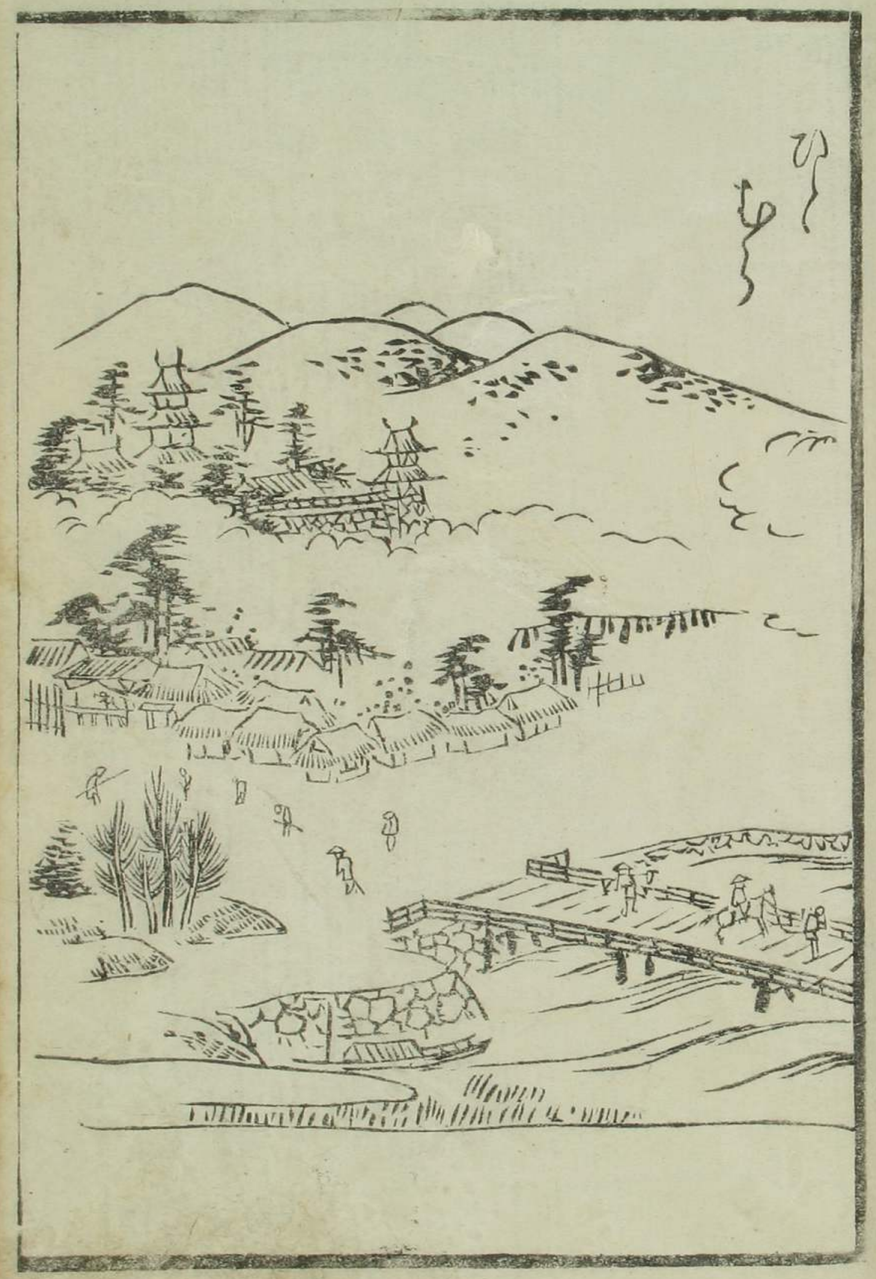
なんぢ。くちぢーとえんぐーかーて。ぼいなきるのよふ
ぐーちやらさとー。さるのあやぢぐ。あれぐよふや
さんびまるやぁ。うぬ八まんさぬの踊ぐていて。
コリヤおうーい。はい八ぐちぜ八まんさぬの踊ぐよふ
とー。おやぢぐ八ハテ きちぐへの長ことよふ
とーとぎぬぁ出うーー。ーーーるんぐ市谷の地ぼへ
おそれるーーー。ひるーーーぐ。あぐきぬとる
ぬのぼゆ安んるとまとて。ちぐ出よふる

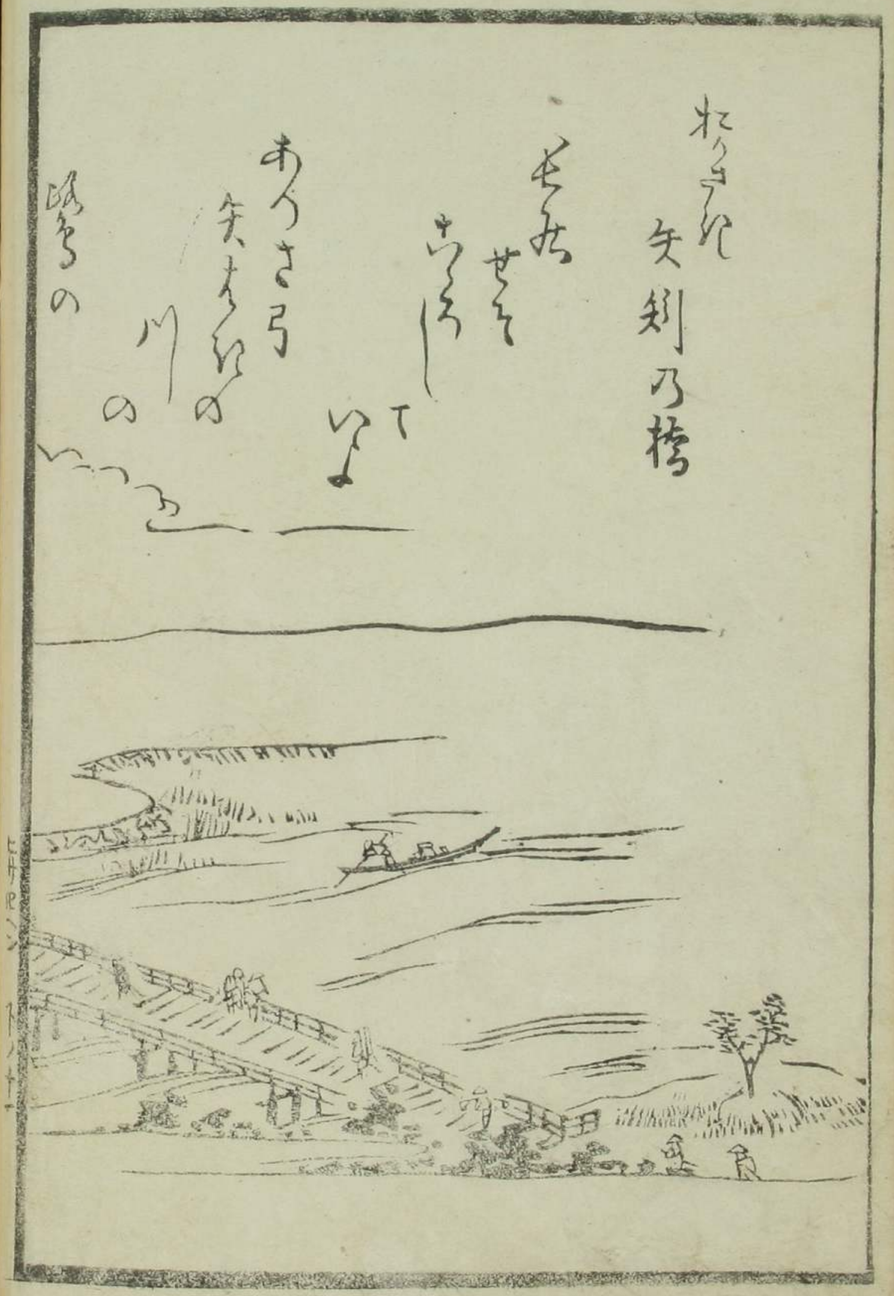
籠子生子荷のあとこふ小鴨まで
ちよ ひとれる 大平の 川
それよふ大手村とるぼりなぐ小器後のくるふつる
こふ生涯よ名さる一猪地田て。球小紙しく夜
例の茶屋。いづれも家乗のくふ ちやちこなふ
ぎぁー。おめとあぐうまぁー。よい徒向もおざり
まぁを。おたつちきくうまぁーく。ナント後ぐを
ちー。ぐろくぐやぁ稲へ八いちきぬ。こぐおい体と

ゆうとうとト あるちやをへ
まつうちの女へよりお出ちやうまつさ
さんお服よりまつよりちやんで味へるのハちやうの女ハイよい
あ
鮎のさうるがおまつさとハ
やぐであるのあぶくとを
つけてぜんとともきうるハドレくこの
ちろいめくぐハ
げんぜん
ハ
ちやうのうちのアレ女が笑つて
いうア。あらハめハ新ちやうがうるつ
能
いぶわうぐぐうぐんで。踊んーのるの陣石ちやうりんぐ
ハくト例のうるくちやうぐきあ
のあるこのハだりはあるくふねはくぐきあきんざい
のあるこのハだりはあるくふねはくぐきあきんざい

この平までおくりまつりとこそ
ゆそぶしあくのちうきぶくうちうちうちうきぶくうちうちうきぶくうちうちうきぶく

ちゑさんハナア。好きなるしたア。米のようなこと
いそしやがナア　糸へまりまとつゆハナア。なるしまい
ちゆのなア　ハイヤ。かるおろ　おろ　おろ　お





矢刻のたしふるる

探手ハ　弓のざくふ　矢摺や

こゆも　矢たばの　川ふ　ふるせで

ふるかとうふ　坂所。屋敷の　名。　村の　遠場

ちやくちやくの　めんぶり。　さくさく　候おめしなるう

まァ　ー。　おやとこ　なきまァ　ー　ー　ー　ー　候ハ

いくつ　つぶりの　二文で　おざりまま　一ハ　さらへ

やきん。　こちこのうづ　やきいこぶの　一ハ　二文

ハ　一ハ　二文で　ハ　二文ぶよりあぶ　ナシト　ハ　二文　ー　ー。　こう

ちやちの　ぜいかちハ　ぜ　二文　ぶ　ぜう　ふんなぜ　ぜ　ふ　ふ

いつくおりぶ　ぶ　ふ　ふ　ぜ　ぶ　ぜう　ふんちぶ　ぶ

ぶんのいふ　ぶ　ー　ー　ー　ー

ちゝ[父]ときまでうゝ[親]へ、だゝ[だん]だゝ[だん]あがれも
そのくゝひるゝとき[時]ゝ[頃]はるゝめゝ[目]ハ
ゝ[ゝ]ゞゝでも[も]ゝ[ゝ]ゞゝ[ゝ]ゞゝ[ゝ]ゞ

おまへたちまでもおまへ
さるしつまでもおまへ
おめへのしこのぞくへ
ハへたるとの孫へぞうぐ
ところやまたものぐ
ちんぐぐらへるしく
コリヤア　ハ又つふまちやア
さるかうへこうたりの

ヒサロヘン　下ノ十四

大きるかうと。かえふ
ちえふまけてこんちま
まれ隙ぐ　むさん隙ぐ
おりんぐぶ。ふと
ちのくくのかう
ちのくくのかう
おりんても。隙
ちりのぐ隙

計

ひやせうく。こちらと
せ人アイよおまと。
ぐらちまた。一ちく
ちきやア孫今。アノ
ぐうぐ　実せ
まと孫ちまと
ぐぶ。おつ
ぐぞうく
ぐ孫
おさよう
ぐ隙
ぐぞくおめ

かうりせぬ。そのもくてきをとゝのへてあげられ
ませんとゝ。ふる十二りうぶつ。極人。さきぶ
いるか。田人きぶけ。すのぶふ角ぶ。ドゆ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。

ゑのもとの村。高倉もとゝ。とゞ屋敷て。
あすまろ　まつ
ゑ松ふらう又ゑび。くるあ〜ちゝ後ゝ名和いろく
の澤地あどふはたゝ。かぎりてあきなふ。ま
そめぢ
うハの又ゑもとう。孫ゝとゝ又ゝけて。おまつり。あるま
そんこ　ゑよん
おまつり。名和ゑ松まつり。おめ〜なされ。サル
ほう
これ〜。おまつり〜。平やあ〜ふやつゝぐ
ほう
あつまりのあまつ澤よ人の所乃
そ
あづ〜まつり。人まつり。うへてゝ

ホハ十ニト。ほうさんゆゝでもゝ。ゑ松へゝ。ゑもられ又ゝと
ほう
てやゝゝぐやア。ゑ松へゝよゝ。ゑんと。ゐゝうはゝそて。
ほう
あづ〜さんでやゝ〜ト。あゝちとゝ又ゝまいをゝちゝ町めゝゝぐれ
ほう　ほう
ある肉。コレ。はまづりへい。ゝ。志まをとゝゝ。ぱゝちのゝゝ
ほう　ほう
ゝるぐよゆんなゝく。うゝちゝてゝ。サア。志まゝ。射ふおゝまいあゝんぐやゝゝ
ほう　ほう
ほう　コレサ。志ゝ平ア。いゝゝぐゝいよ。トをゝ〜どいぐふゝて
ほう　ほう
ハイ〜。ゝれゝる。いゝ〜ゝ。コウト。あゝゝいゝゝぐゝおゝ
まゝる。そゝでゝゝまいゝそゝい。ほう。小ゝれゝて。コレ。ゝ

ぢいさんのうちへ。ぼうこんいらっしゃいまし。
ぢいさん。そちらのわうへひっぱって。ふてくされて。
ぢいさんのうちへ。ぼうこんがあきんどぢ。
ふてくされてゐるのぢいさんのうちへ。ぼうこんがあきんどぢ。
コウト　ヱト　あきんどぢいさんぢや。こういっ。まけるせんにんだ。
まけいやちがうまんぢ。へがーやぎ　ト　なるほど　奉公　のあいま　ぼうこん
さんで。あきちゃひとちよまいう。あるこがまつて
どざいせうにんよいとこのこそでも。てきこ　ろ　なるいとうふ　ぼうこん

まいぼうこんいらっしゃいまし。きんぐ　あるうまい。ないもんぢや。
ぼうこんぢいさんぢやて。ぼうこんぢいさんぢやて。
金泥がある。まいぼうこんをぼうこんぢいさんをいやがる。ある
うぼうこんをみこれいふんどぢ。ぢけでいっぢにんぢや
ふんどぢ。ぼうこんをみイヤぢ。つけせんだんぼうこんまいうと
てうまいぼうこんアがる。ぼうこんのふりのふりをぼうこもいるものう。
たちまちうこしあがト　たちまちうこしあがト　たちまちうこしあがト　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆくよゝ母ごて用だゝし格をうちつゝかさでう
紙まる書ゝ為てる。笠と いてでまゝうゝ本像る。
ゆへ。この石あゝうゝや
秘 恋のあゝごの面よ浦れごゝや
うゝと 絵ゝゝゝゝんゝんの 像
てゝゝうゝこゞ村。山ざれ格。他人 嫁をうちまゞ。
ゆゝやく宮の宮よいゝゝし はいゝや日ゝ用おゝて。
格象ゝう 家毎よゝあゝをゝゞむう 出安のあゝ サし。

用るゝごゞゝ ア おゝ母うゝじゞゃおゝ せん。お湯もちんゝ
旦いておゝまゝ。おゝいゝゝゃくゝおゝ せん。おゝ母うゝゝ
ゝゝゝ せゝゝ 用ゝゝゝゝ

トみりうとざーきくさぶ。ぶ門法師ふ小八ち
ぶ。じとあぎ。おんとるぜちやとりち手り一おちやあがりませ
ざるのあんまおまるーぢとなきれませあう一ぱあうーぢもし
てんぐ。ぱたうがるつ一うどんでもうけてきやこてのの
めんぶつぶ一さるーちつのちふまるせまぢトまたちあてかこうんぐれきこ
やまとりてう一ハイかるうでまぢうまたう。ちハ者ぢのの
ちんとたり一ハイかるうでまぢうまたう。ちハ者ぢのの
おんぢたきる。まみ法の蓮之おぶざーとおさのこ
ゆーまと一ハイきてこハそんへあげてくるる一ちいまとし
なぐートぜふ八文出てるゆ一ハイとたこしのこ
出ちぶ八うりてぶ一人一ハイとたこしのこ十

ぶ銭のろ解ぞてまた。おんちちぶんぶ。お銭ぞふ
ほうせへてしたされませ一ちんぢろ場のせーゆふ
つけいれんまーいたをいってるる。ちっていまるせへ
トおなじく八文ぶう出てゆ一ちぶへうりてる一ちと出ぶ一ちて又八文ぶ。きるゆハ
ゆんのとんアまうぢ一イヤ明るハおまでおざうまたう。又
佐屋四ちとちまれまたる一まてぐふこるうこふふ海
せう一ぶあいつぢ。おーこアでゆも。ゆ銭でハなぢせう小役
ちたるぢこふてて。そーて銭つうう出銭へふハこるる。七里

のるといりんざうこ。そこへそなへるまぢこ。ごはもこそのぞうこ。佐金へまいろう。ウ小八(こは)イヤそれもよいものをあげうぢこ。さあうのおうこあ。ヨこそこ。ぢいうも竹のつをきりてあげまをとうこ。それでおせうようねさまるぐようおざうまをと(ほど)そんちうそれとおこのこ中やをと(ほど)ハイく。ぜんぜんをあげうトうこあ。猪女ぜんとうこそこあれぢもやまをやぢそぜんもうぢんなぢこいとまをまをまきうこうこさそぢのあんまきうこ。ぢんなぢこいとまをまをうこる(ほど)ハサアやうこそこうんあせへトこのよりほどぢあんまあせうこあうこちこるうよ

ざうこふこうこうこ金せこ。ぢこ。ぢこ。ぢ

おぢう　きまりこと　ホで　おめへの　はなしを　ちうしてゐる　で
よめさうな　それを　きかう　ふ。　やんや　ゐあてくんな。
よしなく　いしを　おぢうで　のこる　ぐ　ゐ　ぬ　ふ　ら　ま
こよりも　いろも　ぢうり　ふ。　ゐ　ぢ　ぬ　ぬ　ち　び　り
コリヤ　トこ　味　やん　よ　あ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ぎ　こ　の　あ　ゐ　を　ち　よ　と
あ　こ　る　で　ら　と　あ　ん　ま　ヤ　ン　ヤ　ア　ゐ　ら　ふ　く　ゐ　ん　く
ゐ　り　ら　ら　ふ。　ま　ひ　ら　つ　や　ら　ふ　ら　ま　り　ま　ま　く　ら
く　ま　ふ　ら　ー　や　で　ま　つ　ま　で　も　ま　ま　の　ら　き　ま　の　ま　ま　く　ら

ゐ　ゐ　よ　ゐ　ゐ　よ　ゐ　ゐ　や　る　ア　ト　又　あ　ゐ　こ　そ　ぎ　こ　こ　の　ゐ　ま
ゐ　ゐ　ゐ　こ　ま　り　ら　く　ト　ま　ら　ら　ま　ら　ま　ら　ま

こゝの内ふ弟ろてゐる。贅女（ゼ）でもまゝごよいこゝご
ゐり。きゝまんぐ。ヒーゞぎんくと。ヒ形ぐゝ人
きゝせん（ハ）コリヤよかろ。ゆゝ。ヒ形（あま）へそのゝゝ。ヒも
かゝてゞもゆけゝ者。きゝあのゞるふゝひきまん
ゝゝぐんるかゝてもさゝるゝ（ハ）ト。きゝゝ（あま）ト
きゝゝゝきふ（ハ）トゝゝぐゝひゝとゝゝるゞゝひゝとゝ（あま）ゝゞ（ジヤ）ゞ（ジヤ）
ゝゝ（ハ）ゝふゝよゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝの。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ

孫へイヤおいらの方へ湯ふたいつてまつてゝあんまさん
ゆるトいつてまつてゝゆるだけ。あんまいらねごひいてそ
うちの女とこそこうふまつてゝんとまつてゝそ
切。孫ゆるゝいたやそのまゝ孫うみ。
用ハもふるだようゝうへうて。コリヤ孫さんかゝ孫うけこの
こゝをゆめへこまりざゝきのまろりのどんこうえご
うりてゝん朝ゆぶゝ孫ゝゴゼちゝ見ゞあるめへ見ハ
孫へぶまんざゝしやア孫へ今湯ゝゝあゞいてゝるこ。
ひゝうめごゼめゞゝまゞ切ふまごゝはいてゝゝ
少あゝふゝあゝいておいゝ。ゝゝやゞゞ孫へまゝあゝ。

孫ゝドレゝゝトもひおきてのゝ出ゝ
少ゝゝのるゝゝ
ゝゝいきるふうぞゝゝゴリヤヤこのまゝでハおれぬ又
ゝイヤもゝゝ
ゝゆゝよゝこゝゝるゝゝゝ

よく。おぢの者く。トロあれちらされ。ぬるこ。ぬまそぐちぐ
つけく。ぬそ。ぬ。ぬこ。ぬ。ぬ。ぬ

うちをアがる　トきさハぶよがのてでとひく。こいもものさてゝ
きまゝ　ちゝてゝころのうちまおうく。やひみがら
「イヤ」りふ旅のるでおがうまきとゝう。おこひふかられ
をつけて。はれ丸ちあきうがよふ。ごをさうなりふお体
ちゝされ「きさこが」ロるくて弱つられまもあ。よふふあて
いいてもさうまを「さゆうろ」ロ。ト　そこうふてまいして
生ふ　ほたふてゝ
をこのだゝてゝんごゝとこがうよをる
きさハおゝしくふたりぶゝ　るがゝ
「贅」女ごのよりひとゝしふをもかて
えうゝ　「ほ」のちられ人よりてあれ

きてでふあるもつてくゝ交ワられば。まるくゝやゝ一きん
の夏ともむとぶ。あうのきの風樹ふとちゝし沼のかく
れよひぶたて。つたがぶと清ふおがうれば。関さあてこうれば
ちゝあはの方の蔦「カリ」ゝ　「ヒイン」ゝ　「ヒイン」ゝ　「さん」
ちアてるゝ。ちゝて。きてこうふりるナアレアロ　ごひこく
ふ稼ぐ出るヤアイゝ。ふこうふきう「王」ゝ　いんま　きまふ稼
でふまきと。はぜんとあげまきよ「ヨイ」ゝ　小ハサアおきあ
トゝうゝハおきあてふあつう宿ぜんも出
ふひきあひうれうれさるうちやどのていしも「ふ」きうゝのようおさ

あまりまとう丹坂へ出安吉内いとしまを志ま[illegible]
ら[illegible]
ゞサア坂さん出そうけやせう　トてくふたうしそだりてのの
方へ出りやの女だうちんさ
[illegible]きげんよふ又おくぶうふ[illegible]アイおせうふなり　やこ
トいつゝ女だりてゆうだう
とりもこてきでおうう来り[illegible]せんぶゝ
このこまきとで[illegible]ふうとはてはさ西さん。ア
おやてくのうの中夜の竹のつゝ[illegible]ちんこさにて
おきましふどりやふてまりうきようめトてらもの竹の
けてこ[illegible]船七やのうのうこ人ま[illegible]
ゞふこふふちんせんまこひ中夜ふのるけこれてらも竹つてこうて

[illegible]ゞおまさうなこ人なげまもとで[illegible]ゞ
牛ふ[illegible]れとあてゞけてゞ
出そんさ西さん。ふおせへサアとで大夫まゞ
おのゞゞ弥ゞだても弥ぬまと
宮のこさゝいハ流れもなゝ
かゝ弥ゝうれべ来食こるくいここうちゞで船と
来出して形風よ帆とあげ。法よとそゝまて
矢のゞゞさまゞ法こひうう船中哭くの

雑煮椀よ。あごのうけぶくもたづくだうこ。そるあうふ
ぶくひのくしをいわぐぶ。ぶきまちの舟ぶくそうこ
なく漕ちぶひて一河のまろせんうるあいぶつうぞや
きのやをそて。ぶんごよりるなぶつづけでやくらい
せんらいるくく一座よく稼こへいふのまゆまつごうぎふ
まつで。附ふ小役ぐりるようあぶ　トやをのまるぶれ
こでこそそこまくゆあぐひ小ぶんをまるけ竹のつくハ六ふ兄ぶけのごく
きれのやうふあるとあけうるうれべふひのかちるりこそうけでもうぶと
まるつりうの兄ふ法ふくくの公よハあるのあるよハんつうぶまあびくの
ようふおりひ竹りくくへまぶんとまこそあくぶうちあけるるくこそう

あるの中ふて。まぶふ竹のつくへまこそれべまふのあるようせうぶんぶ
るぶれ出て。せんちうせうぶんぶうけくるうの合こまもつぶし
一コリヤくふんぶゆいる。あぶるろうるぶれる一座のうかしう
ぶひんこうちちいこそるる。ふくくこぶこそれも紙入も
びつまようまぶ。コリヤこまくくんハ。ヤア。おまくへ小役まる
トこぶめうれて。法ふふ竹のつくと。ひしるるこそくくまぶ一座法きんぶふくこかのぶ。
おあくへ小役をまるゆう。そそくへあぶて竹のつくのまこの
ゆうと海くへ出くて。まこむのぶるる。ふつそるる。私の中ぶ
せうぶんぶうけふるくへ。子まこ稼くく一座おれふまこ

こてでちこんでおこてぶちまけるのらくおりけこと
の合イヤこそあるもちろんコリヤアこそこてなんい。
ちんどうしあ
毎日ろんくりかちたりのいあいあいなるちんぶぶぶぎ
そんぶ。せうぐんこそこのハ毎日玉さるがけぶ所るこそあうコレ
ふりけせるるハ少ハこそきあきう猫人ぶ所こそこまぶ行の。
つうう。おちる。それもおりてちまはろせるる猫イヤこあハ
そうちへやうふ吹行ふなるうふう所おめへぶ小使
ちうのを。ナニ火ふたぶけふなるりのぶ。ちくうこ

なるせへぷらちのあうぬトいぢゃんこそこちぶんぶとちぶ
ちうこうこて所ちうこそこでうぶ。ぞるるもおまをハうちるせへ所コリヤ
こうちふきるはあんちるせへ。そんぶだんこるるるせをいこ
ゆうこトつうるいちよげうこてぶけるのう合こうく
ゆがうこうひうこてぶんまりでるる皆ちあるハうこるの
きこれの合
いうこる所きうこぶくわ使ようこて必ハたれ。毎ハつぶちく
くんる
ちまるハきこめぶうふくトこるくこれようあぶうてはちく
ふうろこびのほうこうこ必

東海道中膝栗毛五編 全三冊 續出

口上

膝栗毛初編より三編まで追て出版
仕候所彼是四年の内に四篇作者
創の大なるけ中にて御書を出来仕
候に延引仕候義恐入奉存候

上冊四ページ目

作者事実伊勢参詣をふまえて体と長年
活用致候に付き古代くり相撲の地名五編ハ
伊勢の名所中にて一ツ二ツ相撲場も有り事故
作者先年参宮して伊勢名所をたづねし
其節見聞の事年数も多き事故時節ハ
おくれ百姓仕候かくれ仕候て有時世を
経年作者参宮して彼地へ一ぺんの
滑稽者十口二市あんの山のあるもむきを
ほさぬ家

本書は古版にて字大きく文華なし
傳聞のまゝ校合ずして梨子板の仕合
時求帝にて所なんのみなり且上

版元

文化二乙丑春發兌

書肆　通油町
村田屋治郎兵衛

真實有家本

8